令和６年度　第１回　福井鉄道福武線活性化連携協議会　議事録

日　時：　令和７年１月２８日（火）　１０：００～１１：３０
場　所：　福井県繊協ビル６０２号室
出席者：　別紙出席者名簿のとおり
資　料：　別紙資料のとおり

開会

１　会長挨拶

２　議事

規約第 8 条第 3 項により座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（１）福井鉄道からの報告について

福井鉄道から説明（報告（１）－①～③資料参照）

＜質疑応答＞

〇委員

報告(1)–③のとおり、各種企画乗車券を発行するということだが、企画倒れにならないための販売促進はどのように考えているのか。

〇福井鉄道

資料にあるチラシを駅に置くことと、定期券については、毎年、学校への訪問販売を行っており、1 年定期について、9.8 カ月分の価格で購入できるという価格面や、紛失した場合も再発行可能としているので、こういったところを、積極的に学校訪問して、ＰＲしていきたいと思っている。戦略的に企画した商品であり、企画倒れにならないようにしっかり販売促進していく。

〇委員

前年度との比較で、通学定期の利用が落ち込んでいるということで、子供が減っていくということは理解しているが、ハピラインふくいのしきぶ駅が開業に向けて整備が進められている。しきぶ駅は、武生商工高校の通学の足となるように計画されており、一番力を入れていきたい通学で競合してくる。一方で、ハピラインふくい、えちぜん鉄道との 3 社で連携して利便性の向上や利用促進に取り組んでいくということだが、そこの関係性が難しいのではないかと思う。来年、利用実績を見て、こういう数字でしたという報告だけでは済まない。連携した中での対策というのは慎重に考えてもらいたい。

〇福井鉄道

武生商工高校の商業キャンパス移転については、当社のバス事業との乗り継ぎ利用を

してもらえるような対策を考えている。バスのダイヤを改正することで、たけふ新駅での鉄道とバスの乗り継ぎ利便性を高めたい。鯖江市の神明地区から通学している方の多くに利用していただいているので、移転後も継続して利用していただけるようにしていきたい。

急行を普通電車にしたことで所要時間がかかり利便性が低下しているため、えちぜん鉄道と協力して、ダイヤ改正を実施したいと考えている。

○委員

ハピラインふくいも、ダイヤ改正を発表しており、ダイヤ改正するだけでは追いつかないと思う。何か違った形での対策があるといいと思う。

○福井鉄道

ハピラインふくいは、3 月に増便するダイヤ改正をされるということだが、当社は運転士不足で増便という対応は困難である。採用活動は努力しており、令和 5 年 10 月に 2 割減便した状況よりは改善しているが、増便できるような環境ではない。今後、運転士を採用できたとして、増便すれば利用者数は増えるが、増便の仕方によっては収益が悪化していく。運賃収入に対して 2 倍の運行経費がかかっており、経営していく上でバランスを考えていかなければならない。

○委員

それは理解できる話である。増便するのに運転士が必要だということだが、3 社連携の取り組みの中には、運転士の派遣などはないのか。

○福井鉄道

人材確保のために、合同説明会の開催等の採用活動を協力してやっていくということで、3 社間で運転士を派遣することまでは考えていない。

○委員

3 社の連携は、どのようなプラスの効果があるのか。どういう関係性で利便性を高めたり発展につなげていくのか。

○福井鉄道

現在のところ、利用促進として 3 社共通のフリーきっぷを造成したり、当社とえちぜん鉄道との間では、資材の共同購入を行い、コストの削減に努めている。

○委員

極端な話になるが、3 社共通の通学定期を発行できるといいのではないかと感じた。可能性があるなら 3 社で協議していただけるとありがたい。

〇座長

本協議会は、福井鉄道福武線に限定したものなので、乗車実績等のデータも福武線のもので増減を見ているが、利用者や役割は違うが、ほぼ並行して運行しているハピラインふくいは順調であるならば、今まで利用していた人が別の方法に移行したということで、報告のような結果が出ていると思う。各社それぞれで利用実績の増減等を議論する

ことも大事だが、一方で、県内の公共交通全体のことも当然考える必要があり、例えば、ハピラインふくいと福井鉄道を合わせて、ある断面での鉄道利用者の増減がどれくらいなのかを見て対策を考えることも必要である。それぞれ利用者やダイヤなどの特徴があるので、それを踏まえた最適配分を考えながら展開することも大事である。3 社連携の具体例もいくつかあったが、さらに協議して、企画を打ち出していってほしいが、利用者の取り合いにならないようにしてほしい。全体数が同じところで、あっちは増えたが、こっちは減ったと取り合いをしていては、地域にとってはメリットがないので、トータルとして増やしながら、それぞれの特徴を生かした施策を展開していただきたい。

○オブザーバー

令和 5 年に運転士不足で 2 割減便したことに対して、採用活動などを行って、復便に向けて動いているのか。また、学生の利用が減っているということだが、ハピラインふくいを見ると、快速列車が非常に多く、通常であれば新幹線に乗車する人が、ハピラインふくいの快速に乗って敦賀駅まで行っているという背景もあり乗車数が伸びている状況であり、この例を参考に、学生の利用を戻す対策として、朝の通学時間帯に速達性のある急行電車を増やすということをえちぜん鉄道とのダイヤ改正の協議の中で検討するのか。

○福井鉄道

復便に向けて採用活動は努力しているが、運転士の数の余裕がない状況であり、利用者が少ない便を減便して増便するというやり方になってしまう。増便だけ実施するのは困難であるため、ダイヤのスクラップアンドビルドを考えているのが現状である。えちぜん鉄道も運転士の数に余裕があるわけではなく、こちらが提案する改正になかなか乗ることができないという事情がある。今後、協議を続けて、通学利用者を確保していけるようにしたい。また、通学定期の販売促進のための学校訪問をさらに増やすことで、通学利用者を増やしていきたい。

○オブザーバー

親が自家用車で送迎するというケースも多く、そこを取り込んでいくのも重要である。えちぜん鉄道としっかり協議して対策していただきたい。

他に意見がないことを確認し、報告（1）終了。

報告（2）福武線再建スキーム管理部会及び福井鉄道交通圏地域公共交通計画主要施策の進捗状況について

福武線再建スキーム管理部会事務局（越前市）から説明（報告（2）－①～⑤資料参照）

＜質疑応答＞

○座長

P&R駐車場の利用率は49.9%だったが、個別で見て多い駅はどれくらいの利用があるのか。

○福井鉄道

福井市の中心市街地に近い駅の利用が多い。例えば、花堂駅は22台分のうち約9割が利用されており、フリンジパーキングとしての役割がある。

○座長

9割の利用があると、場合によっては停められないこともあるのではないか。

○福井鉄道

そういった問い合わせは今のところない。

○委員

たくさんの企画が実施されていることは評価させていただく。さらに、沿線で実施される花火大会などのイベントに合わせて、臨時列車の運行はしているようだが、それ以外で何か企画していただけるといいのではないかと思う。

○福井鉄道

利き酒のイベントがあった際には、イベント入場券と乗車券のセットを販売したことがある。利用促進のためには、必要なご指摘だと思うので、花火大会での企画は今後検討させていただく。

○委員

鉄道沿線を俯瞰できるイベントがあると面白いと思う。お金がかかる話だと思うが、ヘリコプターや気球などで、上空から沿線地域を見ることで、特に子供を対象にすれば利用してみようと興味を示してもらえるのではないか。できるかどうかは別として、思い切った発想で考えていただきたい。

○座長

地域を知ってもらうというのは、利用促進に効果があることだと思う。各社沿線マップを作成していると思うが、例えば、5月はこのイベントに、6月はこのイベントに鉄道を使って行けるというカレンダーのようなものを紙ではなくデジタルで作成するなど、鉄道を使うという前提の中でどこに行くかを考えるようなものを提案していただけるといいと思う。事業者だけでは難しいと思うので、市民団体等も巻き込みながら一緒に考えていただけるといい。利用実績の報告で、観光利用が増えているということであったが、県外から新幹線で来た方だけではなく、普段は鉄道を使わない県内の人がプチ観光で鉄道を使うという機会ができると新鮮でいいと思うので、アンテナに引っかかるようなものを引き続き考えていただきたい。

○委員

安全対策について、設備更新等の年次計画を作成していることと思うが、本協議会にも示していただけると、市民県民に対して安全に利用してもらえるように計画している

ということが分かるので、できれば示していただきたい。また、事故対策はどのように行っているのか。

○福井鉄道

報告(2)–①では、単年度での実績となっているが、中長期の計画として、5年間の再建スキームがある。現在は、R5年度から9年度までの3次スキームの途中であり、この計画で設備更新や維持修繕について年度計画を立てている。事故対策については、警察と道路管理者と当社で、毎年会議の場を設けて、発生した事故の検証を行い、問題点等を共有し、路面標示の改良などの対策を行うことで、事故件数の減少につながっている。

○委員

企業努力が必要なため、強くは言わないが、年に数回でも抜き打ち検査を実施していただくと、利用者にとっては安心につながるので、ぜひ、会社の方針としてコンプライアンスを持って実施していただけるとありがたい。

○座長

再建スキーム管理部会では、安全安心な運行という一番重要な部分についても、事故件数や故障件数などの目標値を定めて議論している。報告では、主要な施策を抜粋しているが、報告(2)–②および報告(2)–④の資料の目標2の施策番号16～22が安全安心に関するものとなっており、利用促進の部分も大事だが安心して利用してもらうというところもしっかり取り組んでいる。報告においては、その辺りも意識した示し方も必要であると感じたため今後検討していただきたい。

○オブザーバー

国においては、設備更新について、毎年、生活交通改善事業計画という5年計画を事業者から提出してもらい、チェックした上で支援を行っている。

他に意見がないことを確認し、報告（２）終了。

報告（３）国への要望の実施について

事務局（福井市）から説明（報告（３）資料参照）

＜質疑応答＞

○委員

大規模修繕というのは、どういうものが対象となるのか。近年、国費が十分に補助されていないということであるが、補助制度の変更があったのか。

○事務局

国の予算の関係上、満額の補助を受けることができていないということで、十分に補助していただけるよう要望している。

○福井鉄道

大規模修繕というのは、自動車の車検のようなもので、法令に基づいた 4 年に 1 度の重要部検査、8 年に 1 度の全てを分解する全般検査というものがあり、その検査で不具合が見つかった機器の交換が該当し、国の補助制度がある。ボルトやナットの交換などの日常的な修繕は補助の対象となっていない。国の補助は、全国 1000 社近くの鉄道事業者に配分する関係上、ここ数年は申請額通りの補助を受けることができていないため、本協議会から要望をしていただいている。

○オブザーバー

国の補助の状況について、安全設備の更新については、安全第一という観点から、これまで、補助制度通りの 3 分の 1 の補助を実施しており、来年度も、今のところ 3 分の 1 を確保できそうである。車両関係については、予算が少ない状況となっている。現在、車両検査に係る補助は、観光庁の受入環境整備の補助金のメニューで支援している。観光庁予算も非常に厳しい状況で、全国の鉄道事業者に支援するにあたって、赤字の事業者を優先して支援している。今年度は、補助制度は 3 分の 1 であるが、減額して 4 分の 1 の支援となっており、来年度については、補助金を出せない状況となっている。本省に対して、引き続き地域の実情を訴えながら支援していけるよう努めていくが、現状についてはご理解いただきたい。

他に意見がないことを確認し、報告（3）終了。

報告（4）共創モデル実証運行事業について

事務局（福井市）および福井鉄道から説明（報告（4）–①～②資料参照）

＜質疑応答＞

〇オブザーバー

この実証事業は、都市規模によって補助率が違い、福井鉄道の事業については補助率が 3 分の 2 ということで、国庫補助が出やすい新規事業である。R7 年度も同様な事業を展開していくこととしているが、採択条件が少し変わった。現在、国では交通空白解消本部を設置して、交通空白の解消に向けて取り組んでいるが、交通空白解消・官民連携プラットフォームに自治体が加入してもらうことが条件となった。2 月中旬までが募集期間となっており、来年度も引き続きこの事業を実施する場合は、自治体と交通事業者の連携において非常に有効な事業であるため活用していただきたい。詳しくは交通政策部交通企画課にお問い合わせいただきたい。

他に意見がないことを確認し、報告（4）終了。

３　その他

○委員

国の方への要望になるが、観光庁の事業など、国において様々な補助事業が用意されているが、書類提出を含めてハードルが高い。先ほどの事業のように、プラットフォーム等に登録していないと対象にならないというような枠組みがある事業もある。地域の末端の組織でも取り組めるように、裾野を広げて、手を挙げやすい補助事業の体制になるとありがたい。

○オブザーバー

補助事業を実施したいというご相談をいただければ、それに対してしっかりと対応させていただく。どういう形で実施できるか等を相談しながら進めていくのがベストである。国においても、実施した後の効果等、税金の使途としてふさわしいかの検証が必要となってくる。そのため、ある程度、事業実施体制が整っている団体等が支援対象となりやすい。

北陸新幹線の延伸開業から間もなく１年ということで、100 年に１度と言われるこの好機に、地域を挙げたおもてなしで、観光客のほか地元住民の街中回遊も増え、この地域の活性化が大きく進んだと考えている。特に、この年末年始の北陸新幹線利用は大変好調で、前年比の 140%と、この地域への帰省に加え、観光目的での利用も大変多かったと思われる。多くの来訪者が、福井県の各新幹線駅から、各地域に移動していただくため、2 次交通としての鉄道の役割は非常に大きく、シームレスな移動をしていくための、キャッシュレスを含めた利便性のよさ、段差解消することによる移動のしやすさ、ピクト表示や多言語表記を含めた目的地までの分かりやすさなどが、利用者から大きく評価されると思っている。特に、利便性向上という点で、昨年 10 月から導入されたＩＣキャッシュレスは、国内の利用者に向けて必然的な対応であり、運輸局もしっかり支援をさせていただいた。今後は、インバウンド対応としてのクレジットカードのタッチ決済を広めていただくことが必要ではないかと思っている。

また、このような取り組みの前に、やはり、安全確保は何よりも優先すべきということは言うまでもないが、現在も、福井鉄道には、国と県の補助金を活用していただいて、施設の更新、修繕を計画的に進めていただいており、お礼を申し上げる。今後も、安全最優先の取り組みをお願いする。安全の向上という点では、昨年 4 月の、群馬県の上信電鉄の 4 種踏切で発生した小学校 4 年生の死亡事故を契機に、国交省としても、遮断器のない 4 種踏切の廃止を目指して支援をしている。なかなか難しい踏切もあるが、簡易の遮断器や目立つ警告表示の設置への支援をしている。福井鉄道には、現在、4 種踏切がまだ 10 カ所残っているので、ぜひとも事故が発生する前に対策を進めていただきたいと思っている。

全国に目を向けますと、令和 5 年 10 月の地域交通法の改正により、全国のローカル鉄道では、地域の関係者と鉄道事業者が連携協働して、利用促進を含め、持続可能で利便性を確保した地域交通に向けて、継続的に議論協議がされている状況である。国も前向きに取り組みを進める自治体や協議会に対して、限られた予算ではあるが、しっかりと引き続き

支援をさせていただきたいと思っている。運輸局としても、様々な場面で、お手伝いや支援をさせていただきたいと考えているので、ご不明な点があれば、ご相談いただければと思う。

○事務局

利用促進の取り組みについて紹介させていただく。ふくまちラボという、地域の課題をシェアし、事業・政策化を通じて街の景色を作る実践型プログラムがあり、今年のテーマとして、どうすれば公共交通に乗ってもらえるかということを、十数人の民間の方で、半年かけて検討していただいている。その中の取り組みの1つとして、1月11日に、初めての公共交通と題して、小学校低学年の児童5組に、ハピラインふくい福井駅から鯖江駅まで、子供だけで切符を買い、ハピラインふくいに乗車し、買い物をして福井駅に戻ってきてもらい、親は福井駅でその様子をライブ中継で見ているという取り組みを実施した。テレビ局にも取り上げられ、参加していただいた方にも、テレビを見た方にも、評判が良かったので、今後、福井鉄道やえちぜん鉄道でも同様な取り組みができればと考えている。

ふくまちラボで検討された取り組みがもう一つあり、2月1日に田原町ミューズで、たわらまちナイトシアターと題して、映画祭を実施する予定である。短編映画の上映と、監督と主演女優のトークショーが行われ、入場料は1500円だが、電車・バスを利用して来場された方は500円割引となっており、利用促進の取り組みとして考えられている。詳細は福井鉄道のホームページにも掲載されているので、興味のある方はぜひ来場していただきたい。この取り組みに合わせて、ふくいMaaSでは、田原町駅と商工会議所前電停間を1日乗り放題になるデジタルチケットを300円で販売することとしている。

○座長

初めての公共交通は、ニュースで見たが、微笑ましかった。親はヒヤヒヤだったと思うが、子供はたくましくなっていると思う。個人ではそういうことを思いついてやろうと思っても簡単にはできないところを、企画として皆さんが見守りながら実施するというのは非常に貴重で良いことだと思うのでどんどん進めていただきたい。

他に意見がないことを確認し、終了。

閉会